

## 【優秀賞】

### 【転換期を迎えるため池】

東海中学校 二年 長田 悠希

僕が住んでいる名古屋市の隣には、大府市が位置している。母方の祖父が住んでいるので、コロナ禍以前はよく訪れていた。

祖父の家に行く途中、母の車の窓から外の景色を眺めていて、気になっただけのことがある。「池が多い」ことだ。

静岡市出身の僕の父も、大府市には池が多いと感じていたようだ。静岡市と比べて多いらしい。なにか特別な理由があつて、大府市には池が多いのではないかと興味を湧いた。

調べてみると、大府市にはため池が多いことが分かった。大府市の位置する知多半島は、中央に山があり、両側は海なので、水がすぐに海へ流れ出てしまう。このような土地で農業用水などを確保するために、ため池が作られたそうだ。

古い物だと、約三百五十年前、江戸時代に作られたものもある大府市のため池だが、戦後に愛知用水が作られたことによって、その利用は減ってきていたという。

愛知用水は昭和三十年代に造られた。木曾川の上流が水源で、岐阜県可児市や、愛知県犬山市・春日井市などを通して、知多半島までを流れる。

大府市にも愛知用水は通った。もちろん、ため池よりも用水の方が効率良く水を確保できる。本来のため池の使用目的は、水が確保しにくい地域で水を得ることだ。しかし、効率が悪かったため、用水に移り変わっていったそうだ。

僕も実際に、ため池の水を抜いて、土地を埋め立てているところを見たことがある。老朽化したり、水難事故が起きたり、ゴミの不法投棄が発生するため池を減らして、土地を有効利用しようとしていたのだろうか。分かっていても、何となく寂しかった。

ため池の役割は用水が担ってくれるし、危険なものもあるから、ため

池を残していく必要はないのだろうか。

そんなことはないはずだ。豪雨が発生した時、ため池は、川が氾濫し、街が浸水することがないように、川の水を貯めておいてくれる。

僕の行ったことのあるため池公園では、水が噴水として打ち上げられていてきれいだった。ため池には美しさがある。よく考えてみると、それ以外にもため池は、先人の水確保のための知恵を伝える歴史的価値や、特有の生態系を持つていることに気付いた。

このように、ため池には優れた点が多くある。水確保では用水に劣っているけど、それ以外の面でたくさん良さがある。

今後、管理・保全ができないため池については、埋め立てが進められるだろう。安全性の低い場所は、土地の有効活用という点でも、埋め立ては仕方のないことだ。

しかし、整備・管理が可能なため池を、使われなくなったからといって、埋め立ててしまうのはもったいない。本来の目的では利用できなくても、防災・減災機能を持っていたり、親水の間になっていたりする。過去のため池にとらわれず、今必要な機能を持たせた「新しいスタイルのため池」を整備していく必要があると思う。

しっかり管理された形で、優れた機能を持ったため池が、少しでも多く残されていくことを願っている。